

エリートツリー山林苗によるCO₂固定化の推進

(実施期間：2020～2030年)

技術テーマ区分番号：③④

主な実施場所：北海道、静岡、千葉、広島、山口、鳥取、福井、熊本、大分

取組活動の内容

事業目的・概要

● 経緯・背景など

国内人工林の半分は主伐期の樹齢50年を超え、本格的な利用期を迎えている。このため主伐・再造林の面積が拡大しており、それに伴い苗木需要も増えている。農林水産省（林野庁）では、この状況を森林整備の転換期と捉え、成長に優れ、CO₂吸収能力の高い「エリートツリー」苗木の植林に切替える「みどりの食料システム戦略」を公表した。当社は、これまで海外植林で培った苗木生産技術と、茶苗事業で構築した事業モデルを活用し、「エリートツリー」苗木生産事業に取り組んでいる。

■ 当社苗木生産技術の特徴

①挿し木技術：通常（40cm）よりも小さな枝（10cm）からの挿し木技術を確立。従来廃棄されていた枝からも挿し木が可能となり、大量・早期生産に貢献する。

②育苗期間の短縮・得苗率の向上：独自ブレンドの培土と肥料処方を開発。これにより挿し木及び、種子の播種による育苗期間が短縮。（育苗期間 通常2年→当社0.5～1年）。

● 方針・アプローチなど

全国各地にエリートツリーの種子や穂木を取るための採種園・採穂園の整備計画を進めている。実際の苗木生産は地元農家へ、資材や生産技術を提供する委託生産方式を取っている。これにより、地場産業の活性化にも貢献が期待できる。

● 期待される効果・今後の課題や展開など

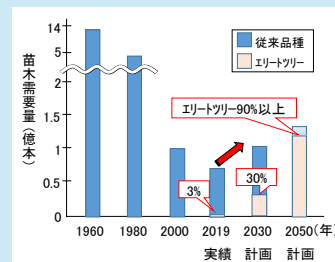
当社は民間では全国第2位の森林所有者であることから、エリートツリーの社有林への植栽及び、外部への苗木販売により、森林によるCO₂固定化の推進を積極的に図っていく。

関連外部リンク先

■ 日本製紙

<https://www.nipponpapergroup.com/research/organize/plant/index.html>

イメージ図



	2019年度 (実績)	2030年度 (計画)	2050年度年 (計画)
苗木需要量	0.7億本	1.0億本	更に増加
苗木市場	110億円	170億円	更に増加
エリートツリー割合 (従来品種から切替え)	3%	30%	90%以上
エリートツリー苗木の必要量 (エリートスギ・ヒノキなど)	200万本	3,000万本	9,000万以上

⇒広がる市場！ エリートツリーへの期待

図1：山林苗の市場動向予測とエリートツリー割合

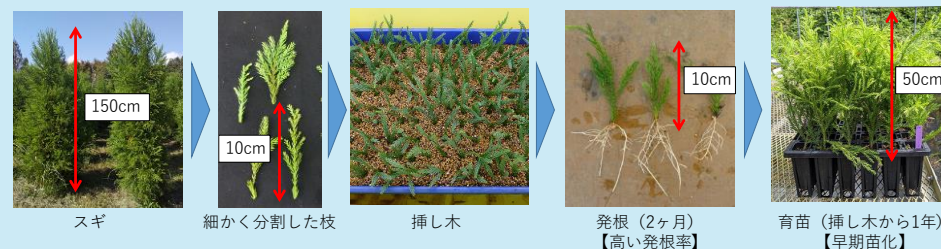


図2：当社苗木生産技術の特徴（小さい枝からの挿し木と早期育苗）

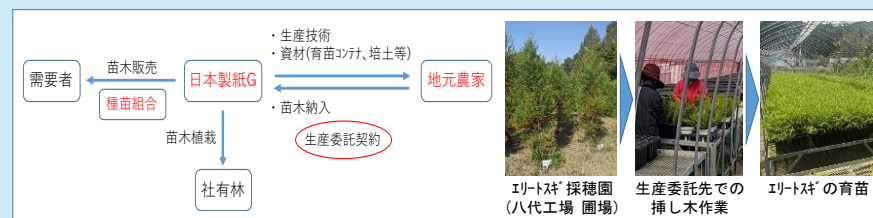


図3：エリートツリー苗木生産のスキーム（地元生産者との協業体制の構築）

公的資金の活用状況（提供元、資金名、活用期間、スキーム等）

- 林野庁 「早生樹等優良種苗生産推進対策」の中で実施予定